

# 平成29年度 事業報告書

自 平成29年 4月 1日  
至 平成30年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5丁目14-16

## I 公益目的事業の実施状況

### 1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

#### (1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

##### ① 蔵書収集

書籍 150 点を購入。このほか個人及び団体からの 108 点の寄贈を受け付けた。

##### ② 閲覧・貸出し

開館日時・日数、ならびに利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

##### <開館日時・日数>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第3水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

開館日数 236 日

##### <利用状況>

利用者数 1,285 人、新規利用登録者数 153 人、貸出し冊数 293 点

#### (2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第26回アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。

講座題目：『“道”から見たアジア・アフリカ世界—経済・文化のネットワークの観点から』

講演者：宮崎正勝（みやざき・まさかつ 著述家、元北海道大学教授）

開催日：平成30年1月28日

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：20人

#### (3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人及び個人からの依頼を受けて年間32件の翻訳案件を処理した。

#### (4) 三鷹市立図書館との協働事業関連

「三鷹市立南部図書館みんなみ」（当法人三鷹本部社屋1階。以下「南部図書館」という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

- ① 南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対して、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した（前年度から継続実施）。

② 中高校生を対象にした専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生との文化交流イベントの開催に協力した。同イベントでは「ハングル習字」や「中国結び人形作り」を体験。創作活動を通じてお互いの文化紹介などを行った（平成30年1月）。

③ 南部図書館の開館記念日行事「みんなみフェスタ」が平成29年11月23日に開催された。概要は以下の通り。

〈午前の部〉

子どもを対象にした行事「ゲームをしながら外国の文化や遊びを体験しよう！」に専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加し、様々な企画に協力した。

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：子供18人、大人16人、計34人

〈午後の部〉

講演会の開催に協力した。

企画名：講演会『インターネットが変える中国社会 ～伝わらないその変貌ぶり～』

講演者：高井潔司（たかい・きよし 北海道大学名誉教授、桜美林大学教授）

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：42人

④ アジア・アフリカ図書館所蔵の図書を南部図書館で展示し、貸出希望の場合は南部図書館経由してアジア・アフリカ図書館で貸出手続きを行う取り組みを行った（前年度から継続実施）。

## (5) その他

① 「“道”から見たアジア・アフリカ世界」に関する常設展示を企画、開催した。

展覧会名：『“道”から見たアジア・アフリカ世界』

展示内容：当館所蔵のシルクロード関連の書籍をパネルと現物展示で紹介

開催期間：平成29年8月30日から（平成30年4月まで継続開催）

開催場所：アジア・アフリカ図書館閲覧室（三鷹本部社屋2階）

② 当図書館の情報発信の媒体「アジア・アフリカ図書館だより」の復刊第3号を発刊した（平成29年7月）。

## 2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

### (1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

#### ア 学校教育法第124条に基づく専修学校専門課程の教育

留学生を対象とした日本語学科は1年・1.5年・2年の3コースを開講した（総定員140人）。また、新設の日本語教育学科（全日制2年、総定員20人）は第1期生を迎え入れ授業を行った。平成29年度の日本語学科各コース及び日本語教育学科の開講実績は以下の通り。

〈入学・在籍者数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生等は除く

##### 日本語学科

平成28年 4月 入学 進学2年コース(58期) 在籍者数17人(29年4月時点)  
平成28年 10月 入学 進学1.5年コース(59期) 在籍者数29人(29年4月時点)  
平成29年 4月 入学 進学2年コース(60期) 入学者数24人(うち編入6人)  
平成29年 4月 入学 進学1年コース(61期) 入学者数46人  
平成29年 10月 入学 進学1.5年コース(62期) 入学者数39人

##### 日本語教育学科

平成29年 4月 入学(1期) 入学者数9人

〈卒業生数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生等は除く

平成29年度の卒業生数は77人

この他、アジア系語学科の「韓国語学科」及び「インド語学科」については継続的に募集活動を行い、平成30年4月より「韓国語学科」が開講することになった。

#### イ 専修学校の附帯教育及び別科

##### (ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育、いわゆる生涯教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や文化講座等を実施した。また、前年度に引き続き夏休みの時期を利用した日本語の短期語学留学クラスを企画し実施した。三鷹ネットワーク大学においては、例年実施している語学の体験講座の他、教養講座も実施した。開講講座及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》

※ 新規開講講座なし

《特別講座》 ※ 受講人数は延人数

##### 【語学講座】

アラビア語会話、アラビア語基礎構文、アラビア語初級会話、アラビア語講読、アラビア語文法復習、アラビア語総合、アラビア語入門・初級、アラビア書道、中国語入門～初級、中国語ブラッシュアップ、韓国語上級、ロシア語上級、インドネシア語ブラッシュアップ 計184人

《日本語サマーコース》

期 間：平成29年7月～同9月 受講生数：21人

## 《三鷹ネットワーク大学における講座》

### 【語学講座】

インドネシア語 他 全8言語 計58人（平成29年4月）

ミャンマー語 他 全8言語 計35人（平成29年10月）

### 【教養講座】

「韓国語基礎力アップシリーズ活用編」13人（平成29年6月～同7月、全5回）

「日本語教師になるための基礎講座」18人（平成29年11月）

「シニア向けインドの文化と言葉を知ろう」12人（平成30年1月～同2月、全5回）

## (イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。

### 《語学研修》

ベトナム語1件を実施

## ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

三鷹市内在住の外国人子弟対象の「日本語教育支援プログラム」を企画し募集を行ったが、応募者がなく今年度は実施を見送った。

## (2) 学生寄宿舍の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」（ゆうほうかん、全20室・基本入居可能人数23人）と「青雲公寓」（せいいうんこうぐう、全4室・基本入居可能人数8人）を使用し、運営した。平成29年度の年間稼働率は、有朋館は約98%、青雲公寓は100%だった。このほか、近隣の民間賃貸物件45室も寄宿舍として利用した。

## (3) その他

### ア 市内の小学生や高校生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校や私立高校の生徒らと日本語学科留学生が交流する活動を行った（平成30年2月）。

### イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。専門学校アジア・アフリカ語学院のテントショップや各種イベントの運営に携わった（平成29年9月）。また、同留学生らは、自治会などが主催する地域の夏祭りや、近隣の市立小学校の父兄グループが主催する小中学生を対象とした交流イベントにも参加した。

### ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

日本語教育関連プログラムを履修している大学生に対して、現場実習の一環として、日本語学科の授業を公開した（都下私立大学1校、計1回）。

### 3 国際交流事業（人材交流活動）

#### (1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

平成 29 年度は実績なし。

#### (2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施 ならびにこれに係る職業紹介

- ① 中国において看護医療を専攻する大学生らが日本の医療機関を視察する日本  
招聘プログラムの実施に協力した。若い中国人医療従事者に国外での就職を考え  
る機会を与えるべく企画されたものである。

< 研 修 者 > 大連医科大学と山東協和学院の看護専攻の学生 2 名

< 研修日時 > 平成 29 年 7 月 15 日から同 19 日

< 研修内容 > 名古屋大学附属病院等の医療機関の視察

- ② ベトナムにおける日本語教育の普及を目的に、ベトナム人日本語教員を対象と  
して、専門学校アジア・アフリカ語学院での授業見学や教員交流などの教育プロ  
グラムを企画し実施した。

< 研 修 者 > ベトナム人日本語教員 1 名（TERAKOYA JAPANESE SCHOOL 勤務）

< 研修日時 > 平成 29 年 9 月 17 日から同 26 日、09:00～15:00

< 研修内容 > 日本語学科授業見学、日本語教授法、等

## 4 国際協力事業

### (1) 外国人技能実習生受入れ活動

- ① 文京支所（東京都文京区西片）を拠点に業務を遂行した。受入れ実習生の講習場所は前年度同様、茨城県美浦村の研修センターを利用した。
- ② 平成 29 年 11 月 1 日に新技能実習法（外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律）が施行され、優良な監理団体として 12 月 1 日付で「一般監理事業」の許可を受け、新制度における監理事業を開始した。
- ③ 実習生入国後の講習において、日本語教育、日本社会適応教育、外部講習（法的講習）の指導担当者を明確にしてカリキュラムの整備を進めた。また、実習先で日本語力のレベルアップのため組織化された日本語倶楽部を中心に、日本語能力試験前の模擬テストと対策教材の配布を行った。
- ④ 平成 30 年 3 月末時点における本業務の概況は以下の通り。  
受入れ技能実習生数：540 名（うち新制度での受入れ実習生数：146 名）  
実習実施機関数：8 社 14 機関  
提携送出し機関数：8 機関（中国 6、ベトナム 2）

### (2) 日本語教育普及活動

平成 29 年 1 月に開設したミャンマー支所「SHAN JAPANESE CENTER（シャン・ジャパニーズ・センター。ミャンマー連邦共和国シャン州タウンジー所在）」を拠点に、日本語普及活動や日本留学の情報提供、日本文化の発信などに取り組んだ。

日本語教育においては、当地の日本語既修者がほぼ皆無であることから、入門・初級レベルの日本語教育を実施し延べ 206 名に対して教育を行った。また年度後半期からは、日本留学を念頭に置いたコースを設け 7 名の受講者を得た。

なお、日本留学情報の提供や日本留学希望者の実態調査を目的に、ヤンゴンを中心に既存の日本語教育機関を随時訪問し、情報交換を行った。

## Ⅱ その他の法人業務の状況

### 1 会員

平成 30 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	11 名	
特別会員（法人、団体）	1 社	
賛助会員※（法人、団体）	7 社	※ 技能実習生受入れ企業が対象

### 2 その他

#### (1) 役員並びに評議員の改選

平成 29 年 6 月 24 日開催の第 8 回評議員会において、任期となった理事及び監事の改選を行った。

理 事	再任 9 名	就任 1 名	（平成 29 年度末の理事現在数 9 名）
監 事	再任 2 名		（平成 29 年度末の監事現在数 2 名）

以上



公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

## 平成29年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上